

ヴァイオリニストTAIRIKの戯言

〔第36回〕

弦が揺れると、僕は季節の風になる

+ 文 佐田大陸 Text by Tairik Sada +

人間の振り幅

美楽さんで書かせていただくようになってから、はや2年。

文を書く作業は、ときどき作曲をする時とリンクします。

伝えたいことがはっきりしている時や、閃きが起きた時には、すかさず取り掛かることが可能なので、スムーズに仕上がります。逆に、何も思い浮かばず、無理矢理捻り出すような時は本当に苦しい思いをします。

マヨネーズの容器を、自分の限界を超えた握力で握り潰し、頑張りに頑張ったあげく、最後の一絞りが出ない時の虚しさのようです。実際はマヨネーズを絞り出す力も出ず、虚な視線で椅子に座り、時間だけが経過するのですが。

今回は、みなさんも人生において何度かは必ず経験するであろう「生みの苦しみ」について書いてみようと思います。作曲をする時は、感情の起伏が一番激しい状態になります。「ポジティブ」と「ネガティブ」を行ったり来たりするので。気持ちがいけいけでクリエイティブな時は、ポジティブでワクワクしているの、作業が捗りませんが、逆に行き詰まっている時は「でき

ない！」ととてもネガティブな気持ちになります。進めど進めど、出口の見えない薄暗いトンネルで、前に進んでいるか右に進んでいるか、左に進んでいるかも全く分からないような、暗澹たる気持ちです。

僕はポジティブな発信をすることが多いので、僕のことをポジティブな人間だと思っている人も多いみたいですが、別にそういう訳ではありません。

例えば、あなたが人前で話さなくてはならなくなったとします。一対一ではなく、多数の人に語りかけなくてはならなくなったときに、慣れないうちは緊張してガチガチになってしまうことも。そして喋ろうと思ったら、頭の中が真っ白になって「アウアワアわわ」と意味不明な言動を繰り返し、おめおめと逃げ帰ろうとしたら、なぜか仕掛けてあったバナナの皮で足を滑らせて転ぶ。帰ることもできずに、笑われたとしたら、とても恥ずかしいですよ。

でも、実際にこんなことが起きたら、後々、経験として語れる「おいしい」ネタになるでしょう。そのように「最悪な想像」をしたあとでそれを受容できたら、あとは少々のが起きてても

大したことはありません。

ネガティブとポジティブとの振り幅こそが、違う視点を作り、発想や生活にハリを持たせてくれて成長につながると信じています。

と、妄想したところで、これからも生みの苦しみを頑張ります。

人間らしい振り幅を楽しみましょう！



好評発売中！
「JITAN CLASSIC」

profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。
2 ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。
2010年キングレコードからメジャーデビュー。
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。

